カンボジア通信

カンボジア教育支援基金（KEAF-Japan）会報

2013年9月　　68号

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町10-5
JICA地球ひろば気付
カンボジア教育支援基金事務局
info@keaf-japan.com
http://keaf-japan.com

「変化」がスピードアップ

「出稼ぎ退学」のため勉学を断念
携帯電話持つ女子生徒も
国民の不満ー総選挙で野党が大躍進

池内　秀樹

ことし３月に訪問したさい、 首都プノンペンも、またKEAFの主たる支援地域のプレイヴェン州も、それぞれレベルは違うものの、変化の波に洗われ始めていることを会報でお伝えしたが、わずか３カ月後の６月の再訪で、あらためて変化のスピードの速さに強い印象を受けた。それに伴って KEAF の支援のあり方も変わりつつあることを実感した。

出稼ぎ退学者が 11 人も

KEAF 支援の中心校のひとつ、プロモルプロム高校では、88 人の奨学生に面接したが、多少、予想していたこととはいえ、中途退学した奨学生が 11 人もいることに驚いた。いずれのケースも男子生徒はプノンペンなどの建築現場へ、女生徒は中国やベトナム資本の縫製工場への出稼ぎに出て一家の暮らしを支えるためだ、との学校側の説明である。

昨年だったか、最低賃金制が 80 ドルに引き上げられたが、これらの出稼ぎで残業をすると、場合によっては「120～160 ドルもの収入になる」（プラティアート中学校長の話）のだ。両親が出稼ぎに出たので、一緒について行ったという生徒もいる。プロモルプロム高校のポーン校長は「せっかく奨学金をもらっているのに、退学者が多いのは学校としても恥ずかしいことだと思っています。新たな奨学生には、奨学金をもらう以上、卒業まできちんと学業を終えるようにと約束させていますが…」と言っていた。しかし、いくら約束させても、守り通せるかどうか。支援対象校のほとんどの家庭が農家だが、肥料代、ガソリン代の値上がりで経営が成り立たなくなったところもあり、「私の家では、ことしは作付けをやめました」と言う女生徒もいた。

携帯ーネットー変化の芽

一方、今回の訪問で、何人かの生徒が携帯電話を持っていることが分かり、面接では、「携帯電話を持っていますか」を質問項目に加えることにした。州都プレイヴェンのプレアンドゥン高校の奨学生全員が携帯を持っていることが分かった。国道１号線から水田地帯に入り車の轍の跡が固まってしまったでこぼこ道を行く交通不便な地域の学校などでは、まだ普及していないことも把握できた。もともとカンボジアでは、回線電話網のインフラがないに等しく、その段階を飛び越えて一挙に携帯電話網の敷設が進んでいるため、携帯を持つ生徒は確実に増えていくだろう。友達同士との会話に使用するのではなく、とくに女生徒の場合は、学校までの距離が遠いことなどから母親との連絡に使っているということだった。

地方にも銀行の支店が進出し、若い銀行員がそろいのシャツ、ズボン姿で街中の食堂で食事をしている風景などに出くわしたが、生徒たちには、彼らがさっそうとして格好よくみえるのだろうか、面接では、銀行員や会計士志望と答える生徒が増えてきた。これもカンボジア社会の変化の一側面だろう。州都にあるだけあって、プレアンドゥン高校にはインターネットの機器を備えた教室がある。面接した男子生徒の一人は、「インターネットでカンボジアの抱える問題を知るようになった。ぜひ、弁護士になりたい」と答えた。

大河メコンをまたぐ巨大な橋が日本の援助で建設中。フェリーの町ネッルーンに橋桁が姿を現した（2013.6）

これも新しい変化の芽である。かつてのポル・ポト政権下では、既存の価値観すべてが否定されて土地は国有化された。内戦後のフン・セン政権も基本的に土地は国有化されたままとの立場をとり （2 頁に続く）

（前頁からの続き）

（「変化」がスピードアップ）

日本の支援で新しい民法を施行したものの、再開発のために土地を強制収用するような場合に、居住権や所有権をめぐる争いは絶えないという背景がある。この生徒はそういう現実を知ったのだろう。

教科書支援－役割りは終えた

「教科書が足りない」ということで教科書支援は毎年３回実施、2008 年からことし 6 月現在までに、支援対象校は 13 校、総計 8,852 冊に上る。教育省からの教科書配布が急に行き渡るようになり、今回の訪問では、スヴァイリエン州のアンサー小学校で 3 年生用の教科書が雨で使えなくなってしまったということ以外には、教科書不足の声は聞かれなかった。しかし、こまごまとした文房具類の不足はまだまだ深刻のようで、あちこちの学校で、ボールペンやバインダーなど、数はわずかだが、非常に喜ばれた。これらは KEAF 支援者が提供してくれた品々である。今後の様子次第だが、教科書支援の役割りはほぼ終えたのではないか、との印象だ。今後はほかの分野へ KEAF 支援資金を回すことが可能になってきたと言えると思った。

プノンペンでは、大学生の奨学生 5 人とも面談した（上の写真）。いずれも成績優秀で、つたないながら、英語で感謝のことばを綴ってきた女子学生もいた。KEAF 支援の成果が実を結びつつあることを実感した。しかし、大学生への奨学金は年 500 ドルと KEAF にとっては少なからぬ負担である。しかも円安の追い討ちもあって、大学生の支援をこのレベルで維持していけるかどうか、大きな課題である。

プラティアート中学卒の新奨学生

政権党の「安泰」揺らぐ

訪問中、7 月 28 日の総選挙の準備が始まっていて、訪問先の学校の先生が与党カンボジア人民党の選挙キャンペーンに狩り出されて事実上、休職状態であるという話を聞いた。内戦終結後、５回目になる今回の総選挙では、海外からの直接投資を呼び込んだ経済成長を目指す与党カンボジア人民党がまずは安泰と見られていたが、選挙運動期間の終盤に、野党救国党の党首、サム・レンシー氏が事実上の亡命先であるフランスから、シハモニ国王の恩赦を受けて帰国し、状況が一変したと地元のジャーナリストの記事は指摘する。帰国したさい、プノンペン空港には、野党支持の大群衆が歓迎のために詰め掛けたという。

総選挙の結果は、勢いづいた野党勢力の熱気を反映して、野党が大躍進し、与党の広報官は即日開票の日の夜、非公式集計だとしながらも、与党 68 議席（90 議席から 22 減）、野党 55 議席（29 議席から 24 増）と述べ、この結果は与党に対する批判、不満の表れであることを認めた。野党は今回の総選挙でも不正、不備があり、「勝ったのは野党だ。この結果を受け入れることはできない」と強気の立場を表明した。中央選挙管理委員会は最終結果をまだ公表できない状況だ。

急速な経済成長のひずみは KEAF の支援地域ですでに見てきた通りだが、カンボジアは政治的にも大きな岐路に立たされていると言えるかもしれない。プノンペンのトンレサップ川の中州で開発中の商業地区を夜、車のなかから通りすがりに見る機会があった。新築のビル群がライトアップされ、カンボジアの発展をきらびやかに示す演出のようだったが、そのなかにロンドンのテムズ川のほとりにあるビッグベンと国会議事堂を模した建物があった。貧しい発想の産物としか思えないこの醜悪な建物を、経済成長の成果としてカンボジアの人々は喜ぶのだろうか。

教科書支援６年間で１万冊

統一試験成績の上昇にも貢献

カンボジアでは小学校から高校まで、全生徒に教科書は無償配布されるはずなのに、農村の学校に行くと全くないか、あっても何人かにやっと１冊というのが実態でした。必要な数が印刷されず、その予算はどこかに消えていたのだと思います。今年に入るころから、なぜか、どこの学校にも教科書がちゃんと届くようになりました。カンボジアで進行中の大きな変化のひとつです。先生たちも理由はよく分からないそうですが、「正常化」されたということでしょう。私たちの教科書支援は役割を終えることになりそうです。

プラティアート中学に届けた教科書詰めダンボール(2012.3)

教科書支援を本格的に始めたのは2008年春でした。前年の夏に「日本・カンボジア友好学園」の支援に専念するコーン・ボーンさんのグループと別れて周辺のほかの学校への支援を始めたところ、どこに行っても「教科書が足りない」という悩みを聞かされました。そこでまず、数が少なくてすむ先生用教科書の支援から取り掛かりました。プノンペンの書店やマーケットを走り回って数冊ずつ買い集めたものです。

しばらくして印刷会社が分かり、学校側の要望に沿って一括注文することができるようになりました。支援の量も対象学校も一気に広がり、教科書を詰めた段ボール箱を 4WD車に積み込んで各学校を回りました。

生徒たちの勉強の実も急速に上がり、プロモルプロム高校では50%以下だった全国統一の高卒・大学進学資格試験の合格率が 2010 年に 80%に上がりました。5 段階評価の２番目のＢ合格者が初めて出て、C 合格も９人と、プノンペンの高校並みの好成績を収め、学校から大変感謝されました。手探りで支援を始めた200７年の詳しい記録がないのですが、この分を加えて支援教科書の総数は１万冊になったと思います。

誰のための「カジノ」

ベトナム国境の町に出現

KEAF の支援活動の中心はカンボジアとベトナムを結ぶ国道１号線に沿ったプレイヴェン州プレアスダイ地方。同郡は東南側でベトナムと国境を接している。2 年ほど前に郡都からベトナムに通じる道路が舗装され、車で１時間たらずだ。監視所の先、小さな川にかかる橋の向こう側がベトナム（下の写真）。住民は通行証をもらえば買い物での出入りは自由だそうだ。

めちゃくちゃに暑く、人の動きもほとんどない。かたわらの茶店にはいり、壊れかけたプラスチック製の椅子に座って一休み。テーブルを覆っていた黒いハエの群れを追い払いながら、脱脂ミルクをこってりいれる甘くて苦いベトナム・コーヒーを飲む。帰途、数百メートルのところに「カジノにどうぞ」の看板。開帳は暗くなってからだそうで、「closed」のバーをくぐって中を覗いてみた（下の写真）。

中央の奥がカジノの建物、向かって右側は宿泊用ロッジとか。カジノと言えばラスベガスやモナコのイメージだが、それにはまったく似つかわしくない。

ガイドさんによると、お客はベトナム人の「お金持ち」で、カンボジア人は出入り禁止だそうだ（多分、表向きの話）。なぜ、貧しい農村にカジノが必要なのか。世の中は不思議だ。カンボジアによく取材にくる外国人ジャーナリストに聞くと、ポル・ポト派の根拠地だったタイ国境に近いアンロンベンはいま観光化が進められていて、ここにもカジノが出現しているという。カンボジア政府はアンコールワットと並べてカジノを観光立国の柱にしているのかもしれない。

ありがとうございました（2013年5月22日～2013年8月年31日）

年会費、寄付金、奨学金をお振り込み下さった方々に心からお礼申し上げます（敬称略させていただきます）

（東京）（？）（東京）（東京）（東京）（群馬）（埼玉）（東京）（東京）（東京）（東京）（東京）
（神奈川）（東京）（愛知）（東京）（福島）（東京）
（東京）（東京）（神奈川）（東京）（東京）（東京）
（東京）（神奈川）（大阪）（神奈川）（東京）
（東京）（東京）（東京）（神奈川）（神奈川）（埼玉）
（東京）（神奈川）（神奈川）（千葉）（神奈川）（大阪）
（東京）（埼玉）（熊本）（神奈川）（千葉）（大阪）（東京）
（奈良）（東京）（埼玉）（東京）（東京）（兵庫）
（神奈川）

※お名前は個人情報なので伏せて掲載しています

※写真つき奨学生紹介の４、５、６，７頁は個人情報保護のため省略

－ －

《支援の品々、ありがとうございました》

◇コート、Ｙシャツ、ポロシャツ、セーター、スラックスなど衣料品約70点、パソコン印刷用紙、ノート、ボールペン、鉛筆などの文房具類多数：（長野県）

◇ ボールペン、ノート、メモ帖など文具品多数：（東京）

《パソコンとデジカメの中古品ありませんか》

カンボジアの農村の学校でも教育省への公式文書や身分証明書などのためにパソコンとデジカメが必需品になっています。でも教育省からは現物が支給される訳ではなく、先生たちは四苦八苦です。新製品への買い替えなどで、使わなくなったパソコンやデジカメをお持ちの方はおられませんか。

お心あたりがあれば、事務局にご連絡ください。

info@keaf-japan.com　　事務局

03-3418-7003　　金子　敦郎

《14年度奨学生は147人です》

６月の現地訪問で９月新学期からの奨学生145人を決めました。面接に欠席した２人は10月訪問のさい面接して決めます。合わせて新年度の奨学生は147人になります。

◇大学生　13年度の６人のうち１人が卒業、新たに２人が加わり計７人。うち４人が女性。国立プノンペン大学に３人、私立の国際プノンペン大学とプノンペン経営大学にそれぞれ１人。専攻は政治、法律、銀行経営、クメール文学などと多彩。新奨学生２人の進学先は６月には決っていませんでした。

◇教員養成所学生　初めて奨学金を出します。コンポントゥラバイ、タッコー両高校から各２の計４人。

◇高校生　プロモルプロム高校88人、コンポントゥラバイ高校38人、タッコー高校５人、プレアンドゥン高校５人（上の写真の前列）の計136人です。プロモルプロム高校の数が多いのは、プレアスダイ郡の中心地にあって、周辺の中学から進学生が集中するからです。